

ELSIを踏まえた自動運転の社会実装

ー自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザインー

日時: 2021年12月13 日(月)13:00-17:30

場所: オンラインによる開催



●お申込み: 日本学術会議ウェブサイト

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0114.html>

参加無料

●お問合せ先: 日本学術会議事務局 企画課学術フォーラム担当、電話: 03-3403-6295

ELSIとは技術イノベーションによって生じる倫理的・法的・社会的な課題を指します。このようなELSI研究は、ヒトゲノム研究のような人間と社会に大きな影響を与える技術イノベーションが生まれた中で登場しました。一方、人工知能などの、生命科学分野以外においても、人間・社会に大きな影響を与える技術イノベーションは生まれてきており、自動車の自動運転技術も、その中の1つと言えます。予防安全技術として進化してきた自動車の自動運転技術は、安全運転を支援するものとして開発されてきました。さらに、技術開発は進み、運転者がいなくても走行が可能なレベル4の自動運転の実現が現実的になってきています。自動運転技術が導入されても事故を完全に排除することが困難と言われる道路交通において、事故時に責任を負う人間主体が不在になることに對しては、十分に倫理的検討がなされ、社会に受容されることが必要です。日本学術会議では、多分野の研究者により、自動運転の在り方を考えてきました。自動運転の社会実装が近くなってきた今、本フォーラムでは、ELSIを踏まえた自動運転の社会実装の在り方を議論します。

総合司会 大倉典子(第三部会員、芝浦工業大学名誉教授)

13:00 開会挨拶
-13:10

菱田公一(副会長、第三部会員、明治大学知財・研究戦略機構 特任教授)

講演

13:10 ELSIおよび責任ある研究・イノベーション(RRI)について
-13:25

小林傳司
(第一部幹事、大阪大学名誉教授、国立研究開発法人科学技術振興機構社会技術研究開発センター長)

13:25 「科学技術の倫理的・法制的・社会的課題(ELSI)への
-13:55 包括的実践研究開発プログラム」の紹介

唐沢かおり(連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授)

13:55 茨城県境町におけるNAVYA ARMAを活用したまちづくりについて
-14:25

橋本正裕(境町町長)

14:25 休憩

14:35 自動運転の社会実装の際に議論すべき法的課題
-15:05

今井猛嘉(法政大学法科大学院教授)

15:05 自動運転バスの実証実験とELSIを踏まえた社会実装への取り組み
-15:35

中野公彦(特任連携会員、東京大学生産技術研究所教授)

15:35 「クルマ」と「自動化するクルマ」の社会的受容を考える
-16:05 ー高度経済成長期のNHKテレビ番組よりー

谷口綾子(筑波大学教授)

16:05 休憩

パネルディスカッション

16:15 自動運転と未来のモビリティ社会
-17:25

モデレータ: 中野公彦(前掲)
パネリスト(予定): 遠藤薫(連携会員、学習院大学 法学部 教授)
鎌田実(連携会員、日本自動車研究所代表理事・研究所長)
佐治友基(BOLDLY株式会社代表取締役社長 兼 CEO)
橋本正裕(前掲)
今井猛嘉(前掲)
谷口綾子(前掲)

17:25 閉会挨拶
-17:30

永井正夫
(連携会員、東京農工大学名誉教授、自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会委員長)

主催: 日本学術会議

企画: 課題別委員会「自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会」

後援: 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局、文部科学省

協賛(予定):

ITS Japan、応用哲学会、科学基礎論学会、社会情報学会、計測自動制御学会、研究・イノベーション学会、サービス学会、システム情報制御学会、自動車技術会、情報処理学会、人工知能学会、電気学会、電子情報通信学会、日本科学哲学会、日本機械学会、日本感性工学会、日本グループ・ダイナミックス学会、日本社会心理学会、日本心理学会、船舶海洋工学会、日本人間工学会、日本ロボット学会、ヒューマンインタフェース学会